

# 第4号

定価一年間300円  
組合員の購読料は  
組合費に含む



発行

# 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1  
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490  
発行責任者 石橋英敏  
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp



堤防決壊で濁流に覆われた倉敷市街地＝「毎日新聞」7月17日

# 被害甚大

## 西日本豪雨

18日現在、総務省消防庁のまとめで死者二一六名、行方不明者一三名、負傷者二五二名、家屋損壊は一八六七軒、浸水被害三万二二二二軒に及びます。犠牲者の多くはお年寄りなど社会的弱者で、子どもたちもそのかけがえのない幾多の命が失われました。愛媛県松山市の怒和島では7日未明、土砂崩れによって小学3年と1年の姉妹が母親とともに犠牲になりました。同島にただ一つの怒和小学校は、姉妹を含め全校生徒6人。島の住民の

6月28日から7月8日頃にかけて全国広範囲に渡った集中豪雨は、道内を含む各地に大きな傷跡を残しました。特に西日本を中心に降り続いた記録的な豪雨は、大規模な河川の氾濫や土砂崩れなどを起こし、甚大な被害を及ぼしました。二百人を超える死者が出、子どもたちも犠牲になりました。懸命な捜索活動や救援活動が行われていますが、余りに大きな災害を前に、人々の生命と生活が深刻な危機に直面しています。国や行政の責任ある対応はもろろん、全国的な支援が急がれます。

# 子どもたちも……

# 急がれる支援

6割が高齢者で、小学生たちは島民みんなの孫のような存在です。姉妹の死はあまりに痛ましく、衝撃的でした。住民は「地域みんなが宝のように思っていたのに……」島の若者が減る中、(亡くなった母子の)三人の存在は喜びそのものだった」と悔しがります。7日以降、臨時休校していた同校は17日から授業を再開、校長先生に付き添われながら残された児童4人が登校しました(写真)。朝会で校長先生は、「一つraidことがあったら泣いてもいい。二人を忘れないでください。……と呼びかけました。子どもたち



校長先生と一緒に学校に向かう怒和小学校の子どもたち＝7月17日「毎日新聞」

は、はっきりとした声で「はい」と返事を戻したそうです(新聞報道より)。

今後の見通しも立たないまま、16府県で四七〇〇人が避難生活を余儀なくさせられ、長期化必至と言われています。避難所に障がいや有する方々の姿が少ないとTV番組が取り上げていました。「他の迷惑になる」などの理由で、自宅にそのまま居残っているケースが多いと言います。中には車中で日々を送る方々もおり、酷暑による命の危機が心配されます。未曾有の被災に途方に暮れる人々。一刻も早く、ゆきとどいた支援が求められます。カジノ合法化のIR法案審議を優先する政府与党に批判の声が注がれています。政治の力なくして本格的な救援復興は不可能です。政治の動向にもしっかりと目を向けながら、私たちができる支援の取り組みが求められます。北海道南西沖地震から25年、あの記憶に重ね、一層痛感します。

## 皆様のご協力を

全北海道教職員組合(道教組)は、「平成30年7月豪雨」(西日本豪雨)による大規模な被害に際し、救援カンパのとりくみをすすめています。

被害の全容がなお明らかにならず、関連被害の拡大も進行しています。学校施設や家屋が壊され、避難生活を強いられる人々がたくさんいます。生活や学びの場を失い、困難に見舞われている多くの子どもたちがいます。

集められたカンパは、子どもたちを支えるために学校や教育関係への救援に活用します。

檜山教職員組合の職場分会が窓口となって、カンパ袋による募金活動をとりくみます。皆様のご協力を心よりお願いいたします。

■第1次集約 7月31日 ■第2次集約 8月31日

### 西日本豪雨災害救援カンパのお願い

西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」では、各地で土砂崩れや河川の氾濫が発生し、多数の死者や安否不明者が出ており、救出活動が続けられています。被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。

これらの状況の中、学校施設が直接被害を受けたり、子どもたちが避難所での生活を余儀なくされている地域もあります。

今回の豪雨による被害に対し、被災地への災害救援とともに、「子どもと学校の救援カンパ」を呼びかけます。救援カンパは、学校や教育関係の救援に使用いたしますので、皆さまの温かいご協力をお願いいたします。

( ) 学校

氏名	金額	氏名	金額



# 北海道150年事業

## 「割り振り変更業務」の対象に

### 歴史見直す機会でも

北海道開拓に従事した受刑者の休泊所の再現模型。動く監獄とも。博物館網走監獄。明治下でも余りに過酷な囚人虐待として廃止。その後に登場したのがあの「タコ部屋労働」でした。



道や自治体などが行う「北海道150年事業」の実施にあたり、道教委が「学校として関わる業務のうち、児童生徒の引率や事業運営などを行う業務を、変形労働時間制(割り振り変更)の対象とする」と提案したことに對し、7月9日に交渉が行われました。

### 道教委交渉

教職員の超過勤務解消に向けたとりくみが模索されているなか、「北海道150年事業」に係る新たな業務が課せられることには問題があること、当該事業への参加の是非については学校の主体的判断に任せられることを求めました。道教委は「学校の業務量、職員の状況等を総合的に勘案し、校長が決定する」と回答しました。

これを機に「地域行事への参加」も対象とするよう求め、「拡大について検討」との回答が示されました。勤務時間の割り振りについては、「対象業務が増えていくのは、

「北海道150年事業」業務に関わる割り振り変更について  
(交渉結果ポイント)

#### 1. 対象業務

(1) 北海道150年事業実行委員会が行う「記念セミナー」

※注 北海道150年記念式典、ほっかいどうサイエンスフェスティバル、北海道姉妹友好提携地域ラウンドテーブル、子どもたちの交流事業など、約50の事業が該当します。

(2) 市町村や企業・団体が行う「北海道みらい事業」

※注 「北海道みらい事業」(道のWEBページに掲載)には、地域の「ふるさと祭り」「なつ祭り」など約1000の事業が登録されています。

上記の事業の実施にあたり、学校として関わる業務のうち、児童生徒の引率業務、事業の運営業務、事前の準備業務

2. 実施 従来の「割り振り変更要領」と同様

3. 施行日 2018年7月10日

は、いいが、現場での周知・理解が追いついていない」などの声もあることから、「時間外勤務の縮減」「健康及び福祉に資す」との制度の目的が生かされるよう周知徹底することも求め、その旨の回答がありました。また、同事業をめぐって、先

住民を抑圧・否定した政策や歴史が、強制労働など多くの犠牲を伴った開拓であった事実にも目を向け、北海道の歴史を再認識する機会となるよう相応の役割を果たすべきことを求めました。



コシャマインの戦いの発端となった事件現場=志海苔の館跡(函館市)。1456年、和人と言い争いになったアイヌ少年が刺殺されたことを契機に、翌1457年、首領コシャマインが率いるアイヌが和人の圧迫に抗して蜂起。1458年に、武田信広によってコシャマイン父子が弓で射殺され、アイヌ軍は崩壊しました。

## 2018文化活動講座

★とき 8月18日(土) 9:00-16:00

★ところ 江差町南ヶ丘 まなびつく  
(檜山地域人材開発センター)

★指導 民族歌舞団『こぶし座』

★演目 ・ぶち合わせ太鼓  
・横笛体験講座

二学期は学習発表会や文化祭のシーズン。この講座で取り組まれた演目は、いつでも、どこでも好評を博してきました。初めての方からベテランの方まで、たくさんのご参加をお待ちしております。

★主催 文化活動講座実行委員会  
(申し込み先) 同事務局 TEL0139-52-0858  
FAX0139-52-1490  
8月10日(金)まで



うれしいとき、かなしいとき  
にあなたを応援します。

## 総合共済

月々600円

- 結婚祝金に10,000円
- 出産祝金で5,000円
- 災害見舞金に10万円(全壊)など  
他にもいろいろ

さらに退職時には  
**掛金が全額戻ります!**

資料をお求めの方は檜山教職員組合へお気軽にどうぞ

立ち止まって考え合おう! 子どものこと、学校のこと、地域のこと

## 2018年度檜山合同教育研究集会 ~領域問題別集会~

とき 8月25日(土) 13:00~17:30

ところ 乙部町生きがい交流センター 乙部町字元町 317 TEL 0139-62-3989

実践報告 養護教諭の視点から見た、子ども・学校・地域 野口 真弓 さん(江差町立江差小学校)

分科会 学級づくりと生活指導 職場づくり 保護者・地域 教育困難 複式学級 教育条件整備

主催 檜山合同教育研究集会をすすめる会 TEL0139-52-0858 FAX0139-52-1490